

鑑賞者の心に寄り添う作品40点を展示

町内在住の画家・mioriさんが3月23日から6日間、福岡市立美術館「ギャラリーF」で個展を開きました。特徴的な仏像画に優しさ溢れる言葉が添えられた心温まるアート約40点を展示。mioriさんは、「作品を見てくれるかたをほっこりと優しい気持ちにできたなら」と目を細めました。



↑自身の岐路になった作品「また逢いましょう」(東日本大震災時に描写)も展示。

↓強風で一部枝が折れてもなお、きれいな色の花をつけ見物客を魅了する虎尾桜。



青空と新緑に際立つ孤高の巨桜

新緑の福智山の中腹にたたく、樹齢600年を誇る県内最大最古のエドヒガン「虎尾桜」が3月18日頃に満開を迎えました。例年よりも一週間ほど早い開花でしたが、ため息が出るほど華麗な姿を披露。鮮やかな緋色の桜を一目見ようと今年も多くの人々が県内外から訪れ、その圧倒的な美しさに感嘆の声をもらっていました。

↓ミニゲームで、必死にボールを追いかける生徒たちを軽くかわすプロ選手。



プロ選手から教わる貴重な体験に興奮

キズナフットサルスクールに「ボルクバレット北九州」から2人のプロ選手が参加し、子どもたち20人(うち11人が福智)と一緒に汗を流しました。清水誠也選手と小林謙太選手がパスの出し受けなど技術面を丁寧に指導。田村桜雅くん(金田義務7年)は「学んだことを生かし、いつか同じ舞台に立ちたい」と誓いました。

活動不足解消に福智名所を歩き汗を流す

町社会福祉協議会主催の「第4回ふくちウォーキング」が3月24日に開催されました。桜の名所「九州マクセルの桜並木」約3キロのコースを参加者42人が自分のペースで景色を楽しみながらウォーキング。満開に咲ききれいな桜と青空とのコントラストの下、汗を流しながらも清々しい表情でゴールを目指しました。



↑方城グラウンドでラジオ体操をした後、約30分かけて九州マクセルを一周。

↓プロジェクトに参加した子ども達と関係者、ミヤザキケンスケさんが「スーパーハッピー号」と記念撮影。



思いと色をのせた列車が走る

「スーパーハッピー号」の完成お披露目式が4月17日に行われました。画家のミヤザキケンスケさんは「スーパーハッピー号を見た人が、その日ハッピーになるように、また地域を明るくする列車になることを願っています」と言葉を弾ませました。式後、記念運行では子どもたち33人が初乗車。車窓の景色や自分が彩った列車が走る喜びで大興奮の様子でした。

新たな先生や仲間との新生活が始まる

町内の2中学校で4月8日に、4小学校と金田義務前期で9日に入学式が行われました。中学生等208人(赤池中66、方城中68、金田義務後期74)、小学生等198人(上野小11、市場小57、伊方小46、弁城小10、金田義務前期74)が入学および進学。学校生活への期待に胸を膨らませ、学び舎の門をくぐりました。



↑担任の先生や友達との対面、緊張と笑顔に包まれた初めての教室(金田義務)

↓スタッフから焼きそばを受け取り、笑顔でWiFi広場へと向かった児童たち。



コロナ禍の児童達に「焼きそば」無料配布

町商工会青年部は「コロナ禍でも地域のためにできる取組を行いたい」と、3月27日・28日に町内の小学生に「焼きそば」を無料配布しました。赤池・金田・方城の3地区で約400食を配布。高津勝平部長は今回の取組を踏まえて「商工会だからできる地域貢献を地道に継続していきたい」と力を込めました。